

# 平成31年度 (2019年度) 県立取手松陽高等学校自己評価表

目指す学校像	学校・家庭・地域社会と緊密な連携を図りながら、教職員と生徒が協働して全ての教育活動に積極的に取り組み、明るく活力ある学校を目指す。具体的には、全日制普通科・美術科・音楽科を併せ持つ学校の特色を活かし、生徒の「生きる力」の育成と本校発展のために、教職員が明確な目標を持ち、教育実践の充実を図る。		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>( 成果 )</p> <p>○基本的な生活習慣の確立や服装容儀を整える生徒指導、課外授業の充実といった進学指導等を通して、国公立大学への進学や公務員試験合格者も増加した。</p> <p>○部活動、生徒会活動、国際交流活動も組織的・計画的に展開することで、生徒・保護者と教職員が一体となる実践成果が達成されつつある。</p> <p>( 課題 )</p> <p>○礼法や基本的な生活習慣のより一層の定着や、一人一人の教職員が全体的な視野での取組で、国際理解教育や道徳教育の充実、部活動の活性化、生徒個々の進路実現を目指す。</p> <p>○新学習指導要領の方針に沿って、「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業の確立を目指し、公開授業を積極的に実施するなど、全教職員で授業改善に取り組む。</p>	基本的な生活習慣と学習習慣の定着	<p>① 朝の交通指導と登校指導の充実を図り、挨拶・遅刻指導、端正な制服着用を含めた生徒指導を徹底する。</p> <p>② 毎日の授業を大切にすると同時に、家庭学習習慣の徹底を図るため、保護者の理解と協力を得るように努める。</p>	B
	学力の向上と個別面談の充実	<p>① 「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、活動的な魅力ある授業を展開することで、生徒の授業への取組を充実させ、学力向上を図る。</p> <p>② 積極的に課題や小テストを活用することで、家庭学習の時間を増やし、自主学習の習慣を定着させる。</p> <p>③ 年間を通して個別面談を計画的に実施し、進路について主体的に考える力を身に付けさせる。</p>	B
	国公立大学や難関私立大学へ挑戦する進学対策の確立	<p>① 受験対策を充実させ、国公立大学合格者数延べ5人、私立大学合格者数延べ130人を目標とする。</p> <p>② 進路講演会や高大連携などの取組を拡大し、生徒の進学意欲を高める。</p> <p>③ 土曜開放の内容充実やきめ細かい課外指導等により、一般入試で合格できる学力を育成し、一般入試合格者数を増やす。</p> <p>④ 三年間を見通した体系的な進路指導の確立と、新しい学力観に対応した指導法の研究を図る。</p>	B
	特別活動・部活動の活性化による学校生活の充実	<p>① 部活動加入を働きかけ、加入率70%以上を目標とする。</p> <p>② 地域行事への参加や地域の施設などと連携し、奉仕活動や体験活動・国際交流を積極的に推進する。</p> <p>③ ホームルーム活動や学校行事に向けた事前指導を十分にを行い、充実した内容となるよう努める。</p>	B

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
教務	授業時間確保と授業の質の向上に努める。	・授業開始・終了時刻の厳守，出張・年休等における授業時間確保に努める。	B	校外の授業参観等も含め，多くの職員が授業改善を意識することが重要である。  本校の特色である地球市民教育の推進によりいっそう邁進する。  体験入学の効率化を含め「松陽通信」の充実，グランドデザインの完成などを中心に開かれた学校づくりをめざす。	
		・研究授業・公開授業（相互参観等）を推進し，全教職員で授業改善に取り組む。	C		
		・「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業の確立を目指し，「友と共に学ぶ」という「とも学」を合い言葉に授業の充実を図る。	C		
	特色ある学校づくりと学校全体の活性化を図る。	・3学科それぞれの特色を生かして連携を図り，学校全体の活性化を推進する。	B		B
		・地球市民教育を支援し，国際理解教育の充実を図る。	A		
	開かれた学校づくりと地域の信頼獲得に努める。	・学校説明会，体験入学，公開授業等によって本校の教育活動を地域に開かれたものとし，本校の特色や魅力を積極的にPRする。	B		B
・情報部と連携し，「松陽通信」・学校HPの内容をより一層充実させ，中学校訪問を実施して広報活動を行う。		B			
生徒指導	基本的な生活習慣の確立を図る。	・身だしなみを整えて生活をさせるために，登下校時の指導・授業時の指導（段階的指導）を徹底する。	B	B	
		・挨拶を励行し，教員側からも積極的に挨拶をしていく。	B		
		・遅刻を減少させるために，昇降口での登校指導の充実，本人との面談，家庭との連絡を徹底する。また遅刻指導を実施する。	B		
	事故等の未然防止に努める。	・事故等（交通，生徒指導，校内における諸問題）の未然防止に努めるため，各関係機関との連携，必要に応じて生徒面談，保護者面談を行う。	C		
特別活動	学校行事を通して，帰属性・協調性・責任感を養う。	・文化祭・クラスマッチ・全校野球応援を通して，達成感を体得させ，クラス・学校全体の連帯感を培う。	B	各自が協力をして，クラス企画を成功させようと尽力していた。主体的に活動する姿勢をもっと育てていきたい。  ボランティアの参加者数は増加した。これを継続したい。委員会の活動も活性化させたい。	
		・主体的に行事に取り組む姿勢と態度を養成し，一人一人が責任感を持って行事に臨む精神の育成を図る。	B		
	生徒会・委員会・部活動への積極的な参加とその継続を図る。	・生徒が主体となる生徒会活動・委員会活動を行い，その内容の充実を図るとともに，組織の一員としての自覚と責任感を養う。	C		B
		・ボランティア活動・地域交流活動の中で，全校で取り組める活動への積極的な参加を呼びかけ，生徒の自主性や社会性を培う。	B		

進路指導	高い進路目標を持つことの重要性を自覚させるとともに、その実現に向けた意欲と実力を養成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学を一般受験で合格できる学習力を育てるための指導体制を整える。また、最新の入試動向の情報収集に努め、各学年と協力し段階ごとの対策を進める。</li> <li>英語4技能検定対策の具体化と他の各種検定の奨励に努める。</li> <li>国公立大学・短大5名、私立大学延べ130名の合格を目指す。</li> </ul>	C	B	個別学習の推奨とそのための学習の核となる意欲ある生徒の掘り起こしと支援に学年・教科連携のもと当たれるようにする。 検定受験等を推奨し資格取得とともに実力養成の必要性を意識させる。	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>専門学校希望者に対して、専門学校の特性を理解させ、オープンキャンパスへの参加や進路講演会を通して、適切な選択をするための情報提供に努める。</li> </ul>	A			
		<ul style="list-style-type: none"> <li>就職希望者に対して、各学年の発達段階に即した勤労観・職業感を身につけさせる。3学年では個別指導を徹底し、個々の適性にあった企業選択を支援する。</li> </ul>	B			
	学習習慣を確立させ、基礎学力の定着を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>課外授業や「朝活」等の個別学習に積極的に取り組ませながら、学校や家庭での主体的な学習を促し、自学自習の習慣を定着させる。</li> <li>保護者への情報提供に努めて連携を強化し、進路や学習に対する家庭での意識の啓発を図る。</li> </ul>	B			進路の手引きの利用法を再考する。
			C			
保健厚生	保健室利用に対する職員の共通理解を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健室利用カードを用いて、担任や教科担当が生徒の状況を把握しやすくする。</li> </ul>	B	B	継続して実施していきたい。	
	生徒の自己管理を支援する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健室の利用の仕方や注意点を明示し、時に応じて必要と思われる情報を生徒に知らせる。</li> </ul>	B		ほけんだより等を通して情報を多く発信する。	
	施設設備を大切に扱う心や公德心を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境美化委員会による学期1回の学校周辺の美化活動を実施する。</li> </ul>	B		継続的に行えるようにする。	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>松陽祭（文化祭）開催時に校舎周辺の美化活動を実施する。</li> </ul>	B			
	学校環境や清潔さの保持のため清掃を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要に応じて清掃区域等の見直しや工夫をする。</li> </ul>	B		ゴミの分別の意識付けを定期的に行う必要がある。	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>確実なゴミ分別のために、分別表をクラスに通年掲示する。</li> <li>一斉清掃時の具体的な重点目標を明示する。</li> </ul>	B			
図書	本に親しむ環境を整え、読書指導を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>蔵書整理等で書架を整理する。</li> </ul>	B	B	図書館の環境を整えるとともに、教科・学年と連携して、本の展示・紹介方法の工夫などにより利用者を増やす。	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事・話題・流行に応じた展示を工夫する。</li> </ul>	B			
		<ul style="list-style-type: none"> <li>新入生に対する図書館ガイダンスを実施する。</li> </ul>	A			
		<ul style="list-style-type: none"> <li>読書感想文コンクールのPRを実施し、応募させる。</li> </ul>	B			
		<ul style="list-style-type: none"> <li>図書館便りを発行し、本に興味を持たせる。</li> </ul>	A			
	委員会の活発化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書委員の当番の仕事(カウンター業務・購入図書のコーティングなど)を明確化し、責任を持って取り組ませる。</li> </ul>	B			当番生徒と担当教諭の連携を密にし、活動の活性化を図る。
		<ul style="list-style-type: none"> <li>松陽祭（古本市）へ向けての計画的な準備・運営ができるように指導する。</li> </ul>	B			

渉外	P T A活動を活発にするように働きかける。	・総会の出席率，支部総会の出席率が上がるように保護者に働きかける。他の校務分掌と連携して，参加率向上に繋がる行事を計画する。	B	P T A本部役員と連携し，積極的な活動ができた。支部懇談会のあり方について，今後検討する必要がある。
		・P T A本部役員と連携し，積極的に活動しようとする流れを継続させる。	A	
	・研修委員会や本部，各支部が企画する行事を保護者に知ってもらい，積極的に参加してもらえよう，情報が会員の手に届くような工夫をする。	B		
	同窓会との連携を密にする。	・同窓会役員との連絡を密にし，活発に活動できるように働きかける。本校の教育活動を後援してくれる会になるよう，卒業生に働きかけていく。	B	
情報	I Tを含めた環境整備とI Tを活用した授業の推進を積極的に図る。	・パソコンを中心に保守・点検を行い，入替え・更新等を検討して，よりよい環境整備を進める。同時に古いパソコン等の廃棄処分を計画的に行う。	B	継続的にI T機器の保守・点検を行い，入れ替え・更新等を計画的に行う。 継続的な啓蒙活動を進め，生徒及び教職員の情報保護および情報モラル，ネチケットの意識向上を図る ホームページの記載内容，デザイン等について検討し，よりよいものを目指す。緊急情報配信メールの安定配信を目指す。
	個人情報の保護と情報モラルについての研究を進める。	・学校で取り扱う電子データについて，その保護及びバックアップを行い，個人情報保護の方策（データの管理体制など）を万全とするための取り組みを推し進める。 ・教科「情報」や生徒指導部と連携を図って，情報モラルについての職員の共通理解・生徒への指導を進める。	B	
	本校への入学希望者や保護者にきめ細かな情報提供を行う。	・ホームページを通して，本校の特色・教育目標・活動状況などをより分かりやすく伝えられるような最新情報を随時提供する。	B	
		・緊急情報配信メールについて在校生徒・保護者に有益な情報源となるような配信の体制作りと実際の配信を目指す。	B	
美術科	教科学習と美術実技の向上を図る。	・学力向上と実技力向上を並行させるため，英語を主とする教科学習を重点課題とし，課外や宿題・検定受検などで学習習慣の定着を図る。	B	学習・実技向上の環境をさらに整え底上げを図る。学年・各教科とのよりいっそうの連携が必要である。 月曜日がつぶれてしまうことが多かったので，今後も振替授業などの対策を講じたい。 芸術鑑賞会は，美術科にとって何よりも得がたい経験である。今後も可能な限り実施し，その成果を表現に活かしたい。
		・描写力・表現力向上のため，継続的な実技課外を企画し，大学・予備校との連携を積極的に推進する。	A	
	第23回取手松陽美術科展の成功を目指す。	・専攻授業年間35日を確保し，より完成度の高い作品制作と発表ができる環境を整える。	B	
		・展覧会を開催するために必要な作業を通して，コミュニケーション能力を養うとともに，達成感や充実感を味わえるように生徒の役割分担等を工夫する。	B	
	進路意識の向上と美術界の次代を担う人材育成を目指す。	・芸術鑑賞会等で本物に触れる機会を増やすことで，豊かな感性を育む。	A	
		・大学の出張授業や芸術鑑賞会，ワークショップ等を通して，幅広い芸術分野に興味・関心をもたせ，進路選択の幅を広げられるようにする。	A	
・地域や各種機関等からの参加要請や，コンクール応募に可能な限り応え，美術科としてのプライドを持ちながら，社会貢献の一助を担えるよう努める。		A		

音楽科	一人一人の能力に合わせた学習指導体制の充実を図る。	・ソルフェージュの習熟度別学習や実技の個人指導を徹底し、能力差を考慮した学習を展開する。状況に応じてグループの再編を実施するなど柔軟な対応を施す。	A	試験後のクラス替えや現状に即した内容で、その都度検討することで、きめ細かい指導ができた。専任4名が76名の生徒状況把握に努めていくことを継続する。 大学見学会(1・2年)・実後ガイダンス(2・3年)等、各大学広報課または、入試課を通じて大学との連携をさらに深める。 定期演奏会・卒業演奏会・松陽フレッシュコンサート・公開レッスン・芸術鑑賞会を発展的に実施する。 演奏会や実技試験に臨むステージマナーや服装・心構えなど、今後も向上を目指す。 校内における、すべての行事が本校志望者数につながるよう、さらに充実させる。
		・指導スタッフの連携を図り、指導法の工夫改善や教材研究を十分に行う。各学年とも専攻レッスン年間35日を確保し、授業優先の徹底を図る。	A	
	進路意識の具体化を図る。	・実技担当者、保護者、大学との連携を図り、個人指導および面談を重視する。希望を持って第1志望校合格の実現に努めるような能力、態度の育成を目指す。	A	
		・オープンキャンパスや講習会(レッスン)に積極的に参加し、進路に対する意識の高揚と目標の明確化を図る。大学に対する公開レッスン(学年実施)などの要請を積極的に行い、情報の提供と交流を図る。	A	
	さまざまな研究発表の機会を通し、芸術的感性の伸長を目指す。	・校内外における演奏会や公開レッスン、芸術鑑賞会を積極的に実施する。	A	
		・生徒の興味関心を生かした題材の企画運営をし、成就感や充実感が味わえるよう努める。	A	
	専門知識を身に付け、芸術文化の発展に貢献できる人材の育成を目指す。	・正しい服装やマナーの大切さを自覚させ、アーティストとしての誇りと調和の取れた豊かな人間性を培う。	A	
情報提供に努め、中学校など外部との連携を密にする。	・中学校訪問、体験入学、学校説明会、訪問コンサートなど対外的広報活動を積極的に展開し、相互理解を深める。	B		
事務	会計の効率的執行に努める。	・備品、消耗品等を早期購入し、年度内の授業で使用できるようにする。	B	
	より良い環境づくりのための施設、設備等の整備に努める。	・施設、設備の定期的な点検を行い、不良箇所については早急に修繕する。 ・計画的に樹木の剪定を行う。	A	
教科指導	指導計画を充実させて指導形態・方法の工夫に努め、授業力の向上を図る。	・観点別評価を重視し、総合的な評価を目指すことで、生徒の学習意欲を高める工夫に努める。	B	職員研修の機会は多く設けることができたが、指導法についての研修はこれからの課題である。 学年によってまちまちなので統一のとれた効果的な活用法を考えたい。
		・教職員の研修を充実させ、指導法の向上に努める。	C	
	自ら学習に取り組む意欲を高め、課題解決能力の向上を目指す。	・学力向上重点目標を実現させるため、学年多目的室や個別学習室の充実を支援し、自主学習の定着を図る。	C	

国 語	計画的に授業を展開し、授業力を向上させる。	・授業目標に沿う授業計画を立案し、密度の濃い授業を展開する。	B	B	生徒の実態や興味関心を踏まえ、さらに綿密に計画を立てる。 教員が生徒を引っ張るだけではなく、生徒自身が客観的に振り返る機会を増やし生徒の自主性を高める。
		・授業終了後に指導内容を点検し、次の時間授業改善に生かす。	A		
	基礎学力の定着を図ると共に、進学対策を充実させる。	・小テストを利用して学習理解度を把握し、不十分な生徒に課題等を課す。	B		
		・課外授業を充実させ、応用力を身に付けさせる。 ・現代文はもちろん、興味を失いがちな古典に対しても、言葉が日常生活に密着していることを習得させる。	A B		
地理歴史	密度の濃い授業を展開する。	・目標に沿った授業計画を立案し、担当者間の協議を密にする。	B	B	生徒の興味・関心に配慮しつつ多様な教材を活用していく。 主体的・能動的な学習を展開するための技能の向上を更に進める。 評価方法の更なる改善のために研究を重ねる。
		・授業後の内容点検、反省を常に行い、授業の改善に努める。	A		
	学ぶ意義を理解し、学ぶ喜びを実感できる授業を展開する。	・教材、授業内容・方法について研究協議を開き常に改善に努める。	B		
		・各種研修会に積極的に参加し、成果を伝達し、相互の研鑽に努める。	B		
生徒の学習理解の把握・評価に努める。	・あらゆる機会、材料を通じて生徒の学習理解度を的確に把握し、授業の展開に役立て、多角的・総合的な評価を実施していく。	B			
公 民	密度の濃い授業を展開する。	・目標に沿った授業計画を立案し、担当者間の協議を密にする。	A	B	生徒の興味・関心に配慮しつつ多様な教材を活用していく。 主体的・能動的な学習を展開するための技能の向上を更に進める。 評価方法の更なる改善のために研究を重ねる。
		・授業後の内容点検、反省を常に行い、授業の改善に努める。	A		
	現代社会の事象を理解し探究する喜びを実感させる。	・教材、授業内容・方法について研究協議を開き常に改善に努める。	B		
		・最新の情報の収集、分析に努めるとともに、各種研修会に積極的に参加し、成果を伝達し、相互の研鑽に努める。	B		
生徒の学習理解の把握・評価に努める。	・あらゆる機会、材料を通じて生徒の学習理解度を的確に把握し、授業の展開に役立て、多角的・総合的な評価を実施していく。	A			
数 学	進路希望に即した授業の展開を図る。	・シラバスを作成し、それに基づいて授業を実施して、常にその修正を行い、年度末にその総括をする。	B	B	教材・内容を検討し生徒の実態に応じた授業を展開する。
		・進度・内容・教材の工夫等の連絡・研究を密にし、チームとして指導する。	B		
	生徒の基礎学力の定着を図る。	・予習復習を奨励する。	A		予習復習の習慣付けを促し、学力の全体的な底上げを図る。
		・必要に応じて小テストや課題提出を実施する。	B		
		・理解不十分な生徒への補習を実施するなど、学習内容のさらなる定着を図る。	A		
・計画的な課外により応用力を高める。	A				

理科	身近な自然現象を探究することで、自然科学に対する興味関心を高める。	・考える授業を展開するようにし、自然科学について興味関心を高めて、知識を身に付けさせるように努める。	B	C	全体的に実験を取り入れることが少なく、基本的な操作を体得させることができなかった。実験の数を増やしたい。	
		・身近にある材料や自然現象を活用した観察・実験を行うとともに、器具の基本的操作を習得させる。	C			
		・コンピューターを活用した視聴覚教材を授業に効果的に取り入れる。	C			
	基礎学力の定着を図り、科学的思考を養う。	・生徒の実態に即した学習課題を出し、授業以外での学習時間を確保する。	C			計画的に課題を設定し、基礎学力を定着できるように取り組みたい。
		・授業の予習と復習を促し、生徒が主体的に授業に取り組めるようにする。	C			
		・課外授業や補習を充実させることにより、生徒の科学的思考力を養う。	C			
保健体育	体力、運動技能を高めるとともに、運動の楽しさ、喜びを味わい、生涯に渡って運動に親しむ実践力を育てる。	・運動時間、運動量を確保し、体力の向上を図る。	A	B	1年間通して継続実施できるよう工夫改善に努める。	
		・チーム毎に作戦を立てたり、練習内容を工夫したりして協力し合うことで、運動の喜びを味わわせる。	B			
		・さまざまな体づくり運動を通して、運動に対する興味・関心を高めると共に、基礎的な体力・技能を高めさせる。	B			
	健康・安全についての理解を深め、自らの健康を適切に管理する力を育てる。	・健康に関する個人の適切な意志決定や行動選択が実践できるようにする。	B		より実感を伴える授業内容となるよう、実生活に即した教材を取り入れた授業実践をしていく。	
		・感染症の予防法を理解させ、自己の健康管理に努めさせる。	A			
		・薬物乱用、未成年者の飲酒、喫煙は心身の健康に深刻な影響を与えることを理解させ、絶対に関わらないという意志を持たせる。	A			
英語	家庭学習の習慣化と基礎学力の定着	・小テストの実施や課題を課すことにより、学習意欲の喚起と家庭学習時間の確保に努める。	A	B	さらに継続的・計画的な家庭学習を促す必要がある。	
		・授業の予習・復習を促し、それによって生徒の授業への積極的参加を図る。	B			
	授業内容の充実と個に応じた指導	・副教材の効果的活用によって、生徒の学習段階に応じた授業を展開する。	B		学習内容に対する興味・関心をより一層持たせるよう、副教材の活用を工夫していく必要がある。	
		・研究授業の実施や教職員間の情報交換を密にすることによって、互いの授業の質の向上を図る。	B			
		・課外指導の充実により、個々の生徒の学習段階・進路希望に即した指導をおこなう。	A			
	コミュニケーション力の育成	・ALTの効果的な活用や、ペアワーク・グループワーク等の授業形態の工夫により、生徒がより主体的・積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢を養う。			B	自信を持って、主体的に英語でコミュニケーションを取れるよう指導する必要がある。
			B			

家庭	一人の生活者として必要な知識と技術力を高める。生活上の課題を主体的に解決するとともに、家庭生活の充実向上を図る実践的な態度を養う。	・新聞記事、写真集、参考文献、視聴覚及びパソコンを効果的に活用し、レポート作成を行い記述力を高めさせる。	C	C	問題解決型学習の効果的な実施のために、生活上の課題を見いだす力とそれを主体的に解決する力の育成がさらに必要である。	
		・実験や実習等はグループ学習とし、グループ内で協力しながら完成を目指し技術力の向上を図る。	B			
		・衣食住・保育・消費生活の各分野において、問題解決型学習を展開し、生徒の実践的な態度を育てる。	C			
		・ホームプロジェクトの課題を通して、主体的に生活課題を解決する力を養う。	C			
情報	情報化社会で生き抜く力を養う。	・情報モラルを身に付けるとともに、最新のIT環境を踏まえて著作権等の他人の権利を尊重する姿勢を育む。	B	B	最新のIT環境を踏まえて授業の展開を工夫する	
	正しい情報を収集する力を養う。	・ブラウザなどを用いたインターネット上の情報検索について知り、有益な情報収集の手段を学び、知り得た情報を有効活用する。	B		信頼性、信憑性が高い情報を見分け、それを適切に利用できる学習を工夫する。	
	情報を正しく発信できる力を養う。	・プレゼンテーション作成ソフトを使って作品を作り、その発表を通してプレゼンの有効活用や情報発信の基礎を身に付ける。	B		質の高いプレゼン作品を目指し、内容を工夫し実際に発表を行う。	
1学年	基本的生活習慣の確立	・教員自ら挨拶を励行し、生徒との良好な人間関係をつくる。	B	B	挨拶や時間を守るなど、集団生活におけるマナーを一層身につけるようにする。教員自らという姿勢も大切にする。	
		・欠席、遅刻、早退の数が減るように、日頃から指導していく。	B			
		・時間厳守を徹底するため、5分前行動、チャイム着席の指導をしていく。	B			
	規範意識と自他敬愛の心を育成する。	・服装指導、頭髪指導の徹底。	B		規範意識と自他敬愛の精神を育むよう継続的に指導する。	
		・ルールとマナーについて考えさせ、日頃の生活でも意識させるように指導する。	B			
		・他人を思いやる心を育てるため、生徒同士の触れあいを大切にさせる。	B			
	将来の希望進路実現に向けての「土台作り」をしていく。	・様々な進路行事を行い、早期に進路に対する積極的な姿勢を育てる。	B		B	将来についての意識を高め、希望の進路実現のため積極的に情報を収集し、目的意識を持って継続的に努力する姿勢を育む。
		・毎時間の授業を大切にさせ、提出物の期限を守らせる。	B			
		・課外授業や模擬試験への積極的な参加を促していく。	B			
		・常に目的意識を持って行動できるよう意識させて生活させる。	B			

2 学年	基本的な生活習慣の確立，規範意識や礼儀を重んじる心，集団の中でのふさわしい態度を育成する。	・挨拶を励行し，他者との関わり方に配慮し，集団の中での立ち位置を意識させ望ましい行動を心がけさせる。	B	遅刻者を少なくしたり手帳を開く習慣を徹底させたりするなど，時間の管理をしっかりとできるようにする。	
		・時間厳守を常に意識し，遅刻することなく，また授業開始時に授業の体制を完全に整えさせるなど，余裕をもって行動する習慣をつけさせる。	C		
		・クラスの活動や学校行事などにおいて，率先して自ら行動でき，集団をより良い方向へ導くリーダーの育成をめざす。	C		
		・毎日2回以上手帳を開き，日々の振り返りをする習慣をつけさせる。	C		
	将来の希望進路実現に向けて主体的に学習する態度や向上心を育む。学校内外の様々な活動に積極的に取り組み，人間的な向上を促す。	・手帳を効果的に利用しながら，毎日2時間以上の家庭学習時間を定着させ，自主学習する習慣を意識づける。	C		C 進路実現に向けて，ポートフォリオの充実，家庭学習時間の確保，外部模試における事前・事後指導の徹底，課外への積極的参加などをよりいっそう推進していく。
		・各種検定試験，ボランティア活動，海外研修などに積極的に取り組み，ポートフォリオノートへの記録を徹底させる。	B		
		・外部模試や進路関係の各種行事において，特に事前・事後学習を徹底させ，主体的な進路実現を意識させる。	C		
		・課外への積極的な参加を促し，高い進路意識を持たせる。	C		
		・松陽祭，野球応援，クラスマッチなどの学校行事に積極的に取り組み，協力して物事を進める姿勢を身につけさせる。	B		
		・部活動や生徒会・委員会活動において積極的に活動させる。	B		
3 学年	3 学年生徒全員の希望の進路実現を目指す。	・目指す進路希望を明確にさせる。	A	B 目標実現へ，個人個人の具体的な行動の質を高める。 日々の学校生活を高い意識で過ごすことで，卒業後に備えさせたい。 良き手本となるような生徒を数多く育てたい。	
		・向上心を持って学習させる。	B		
	卒業後に活躍できる人材の育成を目指す。	・希望の進路実現に向けた準備を充実させる。	B		
		・遅刻を限りなく少なくする。	C		
		・集団をより良い方向へ導くリーダーの育成を目指す。	B		
	最高学年としての自覚と責任感を育む。	・進路決定者へ将来を見据えた準備をさせる。	B		
		・取手松陽高校の生徒としての自覚と誇りを意識させる。	B		
		・問題行動の撲滅。	B		

評価規準 A：大変よくできた B：よくできた C：ふつう D：やや不足 E：不十分